

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

八朔乳児保育園

横浜市緑区北八朔町 1502-37

運営主体：社会福祉法人 山百合会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18～25 ページ
利用者本人調査分析	26～27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2010年1月8日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	八朔乳児保育園（保育所）		
報告書作成日	2009年12月18日	評価に要した期間	6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2009年7月9日～9月30日</p>	<p>自己評価票を全職員に配布し、7月9日に職員は評価機関から第三者評価について説明を受ける。</p> <p>常勤・非常勤すべての職員各個人で記入した。</p> <p>各個人が記入したものをもとに、クラスごとに会議を開き、意見交換しながら1項目ずつ確認・合意した。</p> <p>各クラスから持ち寄り、各クラスリーダー、主任、園長で協議・合意した。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2009年9月14日～9月27日</p>	<p>全園児の保護者（28家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日 第1日: 2009年10月29日 第2日: 2009年11月9日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：園児の昼食の様子を観察。</p> <p>午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、クラスで保育観察。</p> <p>昼食：園児の昼食の様子を観察。</p> <p>午後：各クラスリーダー保育士3名（主任を含む）、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名、事務局長にそれぞれ個別に面接調査。</p> <p>その後、園長・主任に面接調査。</p> <p>最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日 第1日: 2009年10月29日 第2日: 2009年11月9日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>昼食時はそばから観察した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【八朔乳児保育園】

【施設の概要】

八朔乳児保育園は1966年（昭和41年）に「中山共同保育所」として開設されました。その後、1978年に、「社会福祉法人山百合会」が設立認可を受けると同時に、30名定員の「八朔乳児保育園」として認可されました。

現在、0～2歳児を対象に、平日は7時から21時、土曜日は7時から18時まで開所しています。法人の保育目標である「子ども達の笑顔と未来のために」をベースに、「遊びを大切に、集団の中で成長発達の芽を育てる」「一人一人の思いを受け止め、小さいけれど一人の人間として向かい合う」を園目標としています。

当園は、JR・市営地下鉄「中山駅」から徒歩約12分、丘の上の静かな住宅地の一角にあり、近くに系列園である100名定員の「小山保育園」があります。小山保育園の前にある公園は八朔乳児保育園の散歩コースでもあり、近所の畑も小山保育園と共同で使用し、日常的に交流があります。

園舎は2階建てで南向きです。園庭は南側に面し、小さな砂場と遊び小屋に続いて、広々とした木製のテラスがあり、東屋もあり、ここで太陽の光を浴びて遊んだり、戸外の空気の中で食事をしたりすることもできます。周囲は自然に恵まれ、度々訪れる公園が4ヶ所あり、お散歩マップを作っています。

なお、「八朔乳児保育園」は、来年度、2010年の4月から、0歳児から5歳児まで90名定員の「やまゆり中山保育園」として中山駅前に移転することになり、現在その準備段階に入っています。

高く評価できる点

1、園全体という、組織としての力を高めています。

「園全体で取り組む」という姿勢で、園の体制を作っています。

子どもに対しては、日中のほとんどの時間を保育園で過ごす子どもが「わがママが言える」園であることを目指し、園長・主任を中心にして、園全体が一つのチームとなって園の運営に当たっています。0歳から2歳まで3クラスがあり、担任がいますが、全職員が子ども一人ひとりを把握しています。看護師は毎日午前と午後すべての子どもを見回り、主任も各クラスの状況と子ども一人ひとりの状態を日々把握して、職員と連絡をまめに取っています。調理職員もクッキング保育の際にはクラスに入ります。担任以外の保育士にも子どもたちは親しんでいて、園長・主任を始め、保育職員は必要に応じてどのクラスにも応援に入ることができます。体調などによって散歩に行くのを控える子どもがいると、園内で遊ぶほかのクラスに入ったり、状況によっては園長や主任が対応したり、という柔軟な配慮を日常的に行っています。また、延長保育を含めて7時から21時までという長い保育時間を保証していますが、福祉員だけでなく常勤職員が必ず勤務する体制を作って、保育の継続性と子どもの心の安定を図り、保護者との連絡もスムーズにいくように配慮しています。

保護者に対しては、必ず職員間の共通理解を図った上で対応し、信頼関係を築いています。保護者からの相談は、担任・主任・園長という複数の職員で考えることを徹底させ、場合によっては園全体で取り組みます。

このようにして、職員の密な意見交換や連携を図り、新保育所保育指針のポイントの一つである、「個ではなく組織としての力を育てる」ことが実践されています。保護者アンケートの自由意見の欄には、「園長先生も保育に参加されていて安心」「担任だけでなく園全体で子どもをみてくれるので安心」「担任以外の先生も子どもの名前を呼びかけてくれるのでうれしい」「アットホームな感じがいい」などなど、園全体に対する信頼や安心感を語る意見が多く見られます。

2、子どもたちは、全職員に見守られながら、落ち着いて園生活を送っています。

子ども同士のトラブルがあった場合や、子どもがトイレに行くのはイヤとがんばった場合など、どの職員も子どもの気持ちを受け止めて、対応しています。禁止の言葉ではなく、「こうしたかったんだね」と、まず子どもの気持ちを受け入れて代弁し、抱きしめ、言葉で表現することを教え、見守ります。

また、子ども一人ひとりの健康状態はきめ細かに見守られ、食事の面でも、昼食はもちろん午前午後のおやつも野菜中心の手作りです。おもちゃも、子どもたちの興味を考えて作られた手作りおもちゃが多く、子どもたちは温かい雰囲気にもまれて、園生活を送っています。天気の悪くない日は毎日散歩に出かけ、戸外で思いっきり遊びます。

どのクラスでも子どもたちは落ち着いていて、保育士と一緒に、あるいは保育士に見守られて、じっくり遊んでいます。長時間保育や延長保育の時間も同じです。室内で、また戸外で自然に歌を口ずさんだり、楽しそうに体を動かしたり踊ったり、自由に気持ちを表現し、よく遊びます。乳児ですので、時に気に入らないことがあれば怒ったり泣いたりしますが、その気持ちを優しく受け止めてもらおうと、またケロツとして遊びを続けます。

3、保護者の状況を考慮して柔軟な対応をしています。

女性の育児と仕事の両立を目指して創立されたという園の伝統があり、現在も法人の経営理念として「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献（支援）する」とうたっています。当園では時代の流れに即して、保護者のおかれている実情や事情を最大限に考慮し、柔軟な対応をしています。

例えば、朝、子どもの具合が悪そうだったので病院に連れて行ったが大丈夫だと診断された場合や、保護者の事情で登園時間が遅くなった場合なども、快く受け入れています。また、さまざまな障がいのある子どもや文化の違う家庭なども分け隔てなく受け入れて、手を携えて子どもの成長に取り組む姿勢を大切にしています。保護者アンケートでは、「園と保護者との連携・交流について」「職員の対応について」の問いに対して、不満はほとんどなく、満足度は平均して90%以上という結果が出ています。自由記入欄には、「突然出勤になっても快く受けてくれる」「障がいのある子どもさんにも同じ目線で接している」「子どもだけでなくトータルでみてくれる」「小さなことでも相談できる」などのような声が寄せられています。

また、園の行事のうち、秋の「ふれあい祭り」と年度末の「お別れ会」は保護者会が主催し、クリスマス会も保護者会が協力しています。協力にあたっては保護者会の会長・副会長とは別に、保護者たちが自主的に行事の役員を選出し、役員会を重ねて行事を実行しています。保護者会だよりも発行しています。子どもを中心に、保護者と園が協力して園生活を豊かにしようとしています。

独自に取り組んでいる点

職員が前向きに取り組めるような配慮をしています

「働く女性を大事にする」という認識で、職員に対してもさまざまな取り組みをしています。まず、30名定員の子どもに対して、保育士（担任）が市の基準で配置されていますが、そのほかにフリー保育士3名と主任、園長も保育に入ることができる体制を作っています。そのため、勤務時間内に保育に支障をきたさないで研修に出ることが可能になり、職員の体調や職員の子どもの体調が悪いときには、休むことができます。また、年次休暇の使い方の1つとしてリフレッシュを兼ねて海外へ旅行する職員もいます。その中で、異文化に接し、言葉の通じにくい体験をすることも、文化の違う家庭への関心や理解を高める効果があると園では考えています。

当園は定員 30 名、職員 21 名の乳児保育園ですが、職員の健康を考え、職員に保育園の給食を提供しています。また、職員のために、園の近くに一戸建ての家を活用した広い和室の休憩室があり、職員は順に昼休みを取り、短い時間でも子どもから完全に離れた場所で温かい食事を取り、身体を伸ばすこともでき、職員相互の交流の場ともなっています。

さらに期待される点

「やまゆり中山保育園」に移行した後も、今まで培ってきた協力と連携の力を育てていくことが期待されます。

八朔乳児保育園は、理事長の自宅の 1 室を開放して始まった園でした。それ以来 40 年以上同じ場所で、地域に根付いてきた園だと言えます。しかし、中山駅前に移転した後は、園の性質も駅型保育園となり、園に求められる機能にも新しい展開が予想されます。保護者アンケートでは、「これからもアットホームな園であり続け、きめ細やかな保育をしてほしい」「八朔乳児保育園の良さが変わらないでほしい」というような希望や不安が語られています。今まで培ってきた職員集団の力、保護者との連携の力を基盤として、さらに協力と連携の力が育っていくことが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

【八朔乳児保育園】

1、人権の尊重

- ・ 園目標は、法人の保育目標である「子ども達の笑顔と未来のために」をベースに、「遊びを大切に、集団の中で成長発達を育てる」「一人一人の思いを受け止め、小さいけれど一人の人間として向かい合う」を掲げていて、子どもを尊重したものになっています。
- ・ 守秘義務の意義や目的については、法人で研修を行っています。園内では園長が指導し、アルバイト職員にも周知させています。虐待に関しては、早期発見のポイントや関係機関との連携について書かれたマニュアルと、横浜市の子ども虐待防止ハンドブックを備えていて、全職員に虐待の定義と対応策を周知させています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・ 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しています。子どもの目線の高さで接すること、子どもの目を見ることなどを通して、子どもの意見や意思をくみ取ることにも努めており、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっています。
- ・ おもちゃの取り合いのときなどは、まず子どもの気持ちに寄り添って、抱きしめ、禁止の言葉は使いません。子どもの気持ちを受け止めながらも、ほかの子どもとの付き合い方を習っていくように働きかけ、言葉をかけ、根気よく接しています。
- ・ 食事も、楽しい雰囲気の中で残さずに食べる達成感や、苦手なものも少しずつ食べてみようという気持ちを育てています。残さず食べるようにしったり強制したりすることはありません。
- ・ 中山地域ケアプラザ、緑スポーツセンターなどの地域の文化・レクリエーション施設等を利用し、また、毎日の散歩を通して、日常的に地域の人たちと接する機会をもち、交流を図っています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・ 法人の経営理念として「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献(支援)する」をうたっています。保育課程は、保護者のおかれている実情や事情を最大限に考慮し、保護者の不規則な就業状況などにも考慮して作成しています。
- ・ 指導計画に関しては、職員会議を通して、子どもの発達や状況に応じて年間指導計画の作成・評価・見直しを行っています。評価・改訂にあたっては、特に行事などについての保護者の意見・感想なども反映させています。
- ・ 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっています。保護者へは「園のしおり」を通してその仕組みを説明していて、第三者委員については、行事などの際に保護者へ紹介するとともに、事務室前に写真で案内しています。また、玄関には意見箱を設けてあり、個別面談や懇談会、行事の際のアンケートなどを通して訴えることができます。要望や苦情に迅速に対応できるようにマニュアルを作成し、解決策は、職員会議等を通して、職員に説明しています。
- ・ 緊急連絡体制を確立し、定期的に避難訓練をしています。
- ・ 各種マニュアル・規定類の整備がされています。主に規定類は法人で、マニュアルは園で作成していますが、不審者対策マニュアルについては、クラスごとの実情も考慮して作成しています。

4、地域との交流・連携

- ・ 園は、地域の子育て支援ニーズに対応して、毎月1回の園庭・保育室開放、年3回の育児講座の開催、さらに、一時保育や年3回の交流保育を行なっています。また、保育園の持つ子育て支援にかかわる情報や具体的なノウハウは、育児相談、育児講座、園庭・保育室開放などを通して、積極的に地域へ提供しています。
- ・ 運動会やクリスマス会などの園の行事に地域住民を招待したり、地域のボランティアグループと協力して花植え活動に参加したりなど、地域との交流に努めています。また、小学生の見学を受け入れたり、中学生・高校生の体験実習を受け入れたりなど、地域の学校との交流も図っています。
- ・ 地域住民からの子育てに関する相談を受け、内容によっては、緑区福祉保健センター、横浜市北部地域療育センターなどの関係機関・団体と連携がとれる体制となっていて、日常的な連携もできています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・ 保育園の理念や基本方針は「経営指針と職員の行動規範」の中に明文化し、全職員に配布し周知を図っています。保育園の理念や基本方針は、2月に系列6園で行う園内合同研修報告会において、理事長より理解を深めるための説明を行なっています。
- ・ 園長は、重要な意思決定にあたり、保護者懇談会や保護者会を通して、保護者と意見交換を行っています。職員に対しては、リーダー会議で決定し、各クラスへ下ろしています。
- ・ 法人として、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成しています。また、法人として、次代の組織運営に備え、運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みを常に検討するとともに、計画的に後継者育成にも努めています。

6、職員の資質向上の促進

- ・ 職員の研修体制が確立しています。園内研修としては系列6園で構成する各種の部会研修があります。また、横浜市こども青少年局や緑区が主催する外部の研修会・研究会にも、非常勤職員も含めて、積極的に参加させています。
- ・ 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられ、職員のやりがいや満足度を高めています。また、職員会議、リーダー会議等においては、各職員が積極的に発言できるように会議運営を行い、職員からの業務改善提案などを、日々の業務に活かしています。
- ・ 実習生の受け入れにあたっては、マニュアルに基づき、実習生に園の方針、子どもたちへの配慮等を十分説明しています。主任が、受け入れと育成の担当者となり、実習目的に応じた効果的な実習が行われるように、実習依頼校と連絡をとって、プログラム等を工夫しています。また、実習中は各クラスで毎日反省会を行い、実習最終日には全体反省会を設けて、実習を実りあるものにしていきます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。








「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。


3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。


評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営法人である山百合会の経営理念として「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献（支援）する。」、および経営方針「次世代を担う子どもを育てます」「常に保育の質の向上をはかります」「保護者や関係機関と連携し地域社会に貢献します」、さらに法人の保育目標「子ども達の笑顔と未来のために」、および園目標「遊びを大切に、集団の中で成長発達を育てる」「一人一人の思いを受け止め、小さいけれど一人の人間として向かい合う」を定め、これらは利用者本人（子どもたち）を尊重したものになっています。 ・ 経営理念・方針および保育目標は明文化し、全職員に配布され、理解・実践されています。 ・ 保育課程は、経営理念・方針および保育目標や、長年の近隣との交流、住宅地の中に位置するという周囲の環境、保護者の不規則な就業状況なども考慮して作成しています。 ・ また、子どもの目線の高さで接すること、子どもの目を見ることなどを通して、子どもの意見や意思をくみ取ることに努めており、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画にしています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入園児説明会で、保護者と面接するとともに子どもを観察しています。入園までには「家庭環境調査票」「入園前健康診断書」などの書類を提出してもらい、子どもの発達状況や課題を把握しています。 ・ 新入園児の受け入れにあたっては、子どもの様子や保護者の就労状況に合わせて短縮保育（ならし保育）に対応し、子どもが心理的に拠り所とするタオルなどの持ち込みの配慮も行っています。 ・ また、子どもの生活の連続性の視点から、保護者との間の情報交換の手段として連絡ノートを取り入れています。 ・ 職員会議を通して、子どもの発達や状況に応じて年間指導計画の作成・評価・見直しを行っています。また、指導計画の評価、改訂に

	<p>あたっては、特に行事などについての保護者の意見・感想なども反映させています。</p>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園において、子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）へのさまざまな配慮がなされています。 ・ 清掃チェック表により、保育園の屋内・屋外は常に清潔に保っています。窓やドアの開閉により、通風・換気等を確保するとともに、空気清浄器により気になる臭いを取り除いています。各部屋は温度計・湿度計により温度・湿度をこまめにチェックし、気候に合わせて加湿器や除湿器を使用しています。また園舎は南に面して開かれていて、陽光は十分に取り入れられています。 ・ 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備を備え、チェック表に基づき、設備の管理や清掃を行っています。 ・ 1歳児、2歳児クラスにおいては、床にカラーマットを敷く、小さい丸テーブルを置く、牛乳パック製の小さな椅子を並べる、などによりコーナーを設け、小集団保育が行われるよう、子どもの発達に応じた環境の確保に努めています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しています。 ・ 個別指導計画は定期的に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っています。特に、トイレトレーニングや箸の使い方などは、保護者と連携をとりながら進めています。 ・ 子ども一人ひとりの発達の段階に応じて、成長発達の状態を「発達記録」や「児童健康台帳」にまとめています。また、これらの記録は全職員が共有できる仕組みになっています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育をする上で特に配慮を要する子どもについても受け入れる体制をとっています。障がいのある子どもや、気になる子どもについては、特に詳細な記録をとり、職員会議やクラス会議などで話し合い、情報を共有しています。また、外部研修や、系列6園の園長会などにより入手した配慮を要する子どもの保育に関する最新情報は、職員会議で共有し、日々の保育に活かしています。 ・ 障がい児保育については、保護者の同意を得て、専門機関と連携し、必要な助言・指導を得られる体制としています。障がい児に対しては、障がいの特性を考慮した個別指導計画を立てています。 ・ 障がい児保育については、運営法人山百合会として力を入れてきたことであり、全職員で学習して話し合える体制ができています。 ・ 食物アレルギーについては、保護者との密接な連携の下に対応しています。入園時に「除去食申請に対する主治医意見書」を提出してもらい、かかりつけ医師の指示を受け、適切に対応しています。 ・ 代替食、除去食を提供する場合は、子どもの座る椅子の位置を定め、トレーや食器については間違いの起こらないように色や形状による識別を工夫しています。 ・ 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切に配慮しています。外国の文化や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重して

	<p>います。職員は外国の言語を学ぶことなどに努め、文化や生活習慣の違いをほかの子どもたちが理解できるよう配慮しています。</p>
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっています。保護者へは「園のしおり」を通してその仕組みを説明していて、第三者委員については、行事などの際に保護者へ紹介するとともに、事務室前に顔写真を掲出しています。玄関に設けた意見箱、個別面談や懇談会、行事の際のアンケートなどを通して、要望や苦情を届けられる仕組みになっています。 ・ 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できるようにマニュアルを作成しています。園単独で、解決困難な場合には、横浜市福祉調整委員会など、外部の権利擁護機関や相談機関と連携する体制が作られています。 ・ 要望や苦情の解決策は、職員会議等を通して、職員に説明、周知しています。また、「園のしおり」の中で、園や第三者委員に寄せられた苦情を公表するようにしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p data-bbox="156 344 467 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">倉庫にはおもちゃがたくさん保管されています。子どもの興味に合わせた手作りのおもちゃも多く、発達段階に合わせて、各保育室ではおもちゃの入れ替えをしています。0歳児室は布の絵本やぬいぐるみなど、落としても危険のないものは子どもが取り出して遊べるようになっていますが、そのほかは主に保育士が日案に沿って、その都度出してきました。1歳児から2歳児に移るに従って、子どもが自由に取り出して遊べるおもちゃの種類が多くなっていきます。ままごとセット、人形やおんぶ紐、布団、ブロックなど、それぞれ中に入っているおもちゃの絵を貼ったかごに入れて分類し、子どもの手の届く棚に置いてあります。子どもたちは自由に遊ぶ時間に、1人で、あるいは数人で、人形やぬいぐるみを布団に寝かしつけたりし、また0歳児室では、保育士を中心にして、ままごとのカップやお皿などでやり取りしたりする姿がよく見られました。食育としては、2歳児クラスを中心に、園庭や園外の畑で野菜の種まきや収穫、園内でもクッキング保育をしています。年間の食育企画書を作り、計画的に保育に組み込んでいます。例えば、野菜を洗う、人参・大根などを型抜きする(星型にするなど)、芋ほり、たけのこ掘りと皮むき、ソラマメやとうもろこしの皮むき、お団子を丸める、フルーチェを作る、などです。みんなで育てたイチゴは、子どもたちが自分でもいで洗って食べる経験をしました。保育園の生活はおだやかで、子どもたちは気分に合わせて自然に歌を口ずさんだり、ほかの子どもと声を合わせて歌ったりしています。散歩中に誰ともなく「大きな栗の木の下で」を歌い出すと、だんだんにみんなが声を合わせたりする光景もありました。けんかというけんかはありませんが、おもちゃの取り合いのときなどは、まず子どもの気持ちに寄り添って抱きしめ、禁止の言葉は使いません。1歳児の場合、保育士は「どうしてもこれで遊びたかったのね」とか、「『貸して』って言おうね」というように、子どもの気持ちを受け止めながらも、ほかの子どもとの付き合い方を習っていくように根気よく接していました。2歳児になると、子どもたちは保育士が話すと納得するケースが多く、保育士が代弁するのではなく、子どもが自分で相手に言って、コミュニケーションをとることが多くなります。0歳児の保育室では、積極的な健康増進の工夫として、ハイハイ、つかまり立ち、歩行へと成長することに配慮して、床面積をできるだけ広く取り、ぶつかりあったりしないような環境構成にしています。ぐるりと柵をめぐらしてあるベビーベッドは、つかまり立ちを試みる人気の場所です。歩行がしっかりしてきた1歳児の保育室は、上り下りやジャンプができる、角の丸いビニール製の巧技台が部屋にセットされていて、子どもたちは好んでここで遊びます。ビニール

製なので、転んでもケガはしません。また、滑り台、太鼓橋、斜面台などの大型遊具の充実もはかり、発達段階に応じて活用しています。

- 1 保育内容[生活]







- ・ 食事を楽しくする工夫としては、まず、0歳児のときからいろいろな食品に慣れ、味わい、関心を持つようにしています。次第に、楽しい雰囲気の中で残さずに食べる達成感や、苦手なものも少しずつ食べてみようという気持ちを育てています。残さず食べるようにしなかったり強制したりすることはありません。
- ・ メニューは法人の給食部会が作った共通のものをもとに、旬の野菜を多く取り入れています。園としては、盛り付けの際に彩りに気を配っています。そのほか、年に何回か園独自の行事食を計画し、季節感のある特別メニューを工夫しています。その際は大皿に盛り付けて調理職員が子どもたちに取り分け、華やかな雰囲気を作ります。また、バイキング形式にすることもあります。
- ・ 子どもたちの喫食状態を把握するため、各クラスで「給食ノート」に、お代わりしたもの、残したものなどについて、園児ごとに個別の記録をとっています。クラス全体の摂取量や、量・味・盛り付けがどうだったかという記録もとっています。それをもとに調理職員は、例えば切り方については、大きすぎず細かすぎず、子どもの食べやすい切り方になるよう工夫しています。
- ・ 保護者に試食してもらうため、年に数回、試食できる機会を作っています。七夕会、クリスマス会、おもちつき、ひな祭り際には行事食を共に食してもらいます。そのほか、懇談会の後の親子散歩から帰って来たときに、おやつメニューから季節のものを選んで提供したり、また、いも堀りの時期には普段のお迎えの際にお茶と手作りのスイートポテトを味わってもらったりしています。そのようにして、園の食事に関心をもってもらうようにしています。試食や懇談会の際には栄養士も参加します。また、日々の給食をケースに入れて展示するとともに、その日のメニューのポイントや栄養、留意事項を掲示しています。
- ・ 午睡時は、安心して心地よい眠りにつけるように、ボディマッサージをしたり、機械音ではなく保育士の肉声で子守唄を歌ったりしています。
- ・ トイレトレーニングに関する園の方針は、「ゆっくり、のんびり、誉めながら、その子に合わせて」というもので、脳の発達と関連付けて個別に対応しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]





- ・ 子どもの健康管理に関しては、園で作成した健康管理マニュアルがあり、それに基づいて一人ひとりの健康状態を把握しています。看護師は日々午前と午後の2回、各クラスをまわって子どもの健康状態を確認し、職員に伝えています。
- ・ 一人ひとりの子どもの健康台帳に、健康診断・歯科健診の記録があり、保護者には、健康診断・歯科健診の結果を看護師の一言とともに連絡ノートに貼って、伝えています。
- ・ 法人作成の感染症対応マニュアルがあり、毎年法人の看護師部会で




	<p>見直ししています。保護者には入園時に、パンフレット「乳幼児に多く見られる感染症」を配布していて、ここに、感染症の症状や対応方法、登園停止基準も記されています。</p>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園作成の衛生管理マニュアルがあり、マニュアルの見直しは園長、主任、看護師で行い、改訂されたときには職員会議で読み合わせて、共有しています。 マニュアルに基づいて、おもちゃの消毒などを行い、清掃は1階と2階にそれぞれ清掃表を置き、毎日チェックしています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアル、事故対応マニュアルを園で作成しているほか、横浜市健康福祉局発行の「日常における安全管理・危機管理」もマニュアルに加えています。事故対応マニュアルは、予防・発生時・事後について詳しく対応法が書かれていて、全職員に周知させています。また、安全点検ポイントと安全点検記録簿があり、毎月1回主任が点検を行っています。ヒヤリハット事例集も作成しています。 子どものケガについては、事故対応マニュアルに従って対応しています。軽症であっても必ず最初にかかわった職員が保護者に説明するようにし、祖父母などが迎えに来た場合でも、必ず保護者に直接伝えていきます。病院に連れて行くかどうかの判断は園長・主任・看護師で相談し、受診する場合は看護師が担任が連れて行きます。ケガについては園日誌、クラス日誌に記入し、翌日の視診をよく行うようにしています。 外部からの侵入に対する対応策としては、園作成の不審者対策マニュアルがあり、それに従って行っています。表玄関と裏玄関に防犯カメラを設置し、18時以降のお迎えはインターフォンを使用し、18時半に門を施錠します。なお、警備会社との連携体制ができています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園目標として「一人ひとりの思いを受け止め、小さいけれど一人の人間として向かい合う」ことを掲げていて、職員全員でこれを大切にしています。職員はまず子どもの気持ちを受け止めて、1対1の対応を心がけ、穏やかに分かりやすい言葉で話します。保護者アンケートでは、職員について「子どもへの対応が良い」「とてもやわらかい対応」「笑顔がいっぱい」というような感想が出ています。 友達や保育士の視線を意識しないで過ごせる場所を、子ども自らが発見できるようにしています。0歳児クラスでは、ベビーベッドの裏に入って柵につかまったり、柱のそばに隠れたりしています。実際にはその姿は見えるのですが、子どもは隠れているつもりで、一人でゆっくり便をしていることもあります。保育士は子どもの気持ちを大事にして、声をかけたりしないようにしています。 守秘義務の意義や目的については、法人で研修を行っています。園内では園長が指導し、アルバイト職員にも周知しています。 虐待に関しては、早期発見のポイントや関係機関との連携について書かれた対応マニュアルと、横浜市の子ども虐待防止ハンドブックを備えていて、全職員に虐待の意味を周知させています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・もし仮に虐待が明白になった場合は児童相談所に相談し、児童相談所はすぐに看護師を連れて園を訪問し、実際の様子を見て判断し、対処してくれる体制ができています。 ・性差に関しては、遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていません。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の保育方針については、園長が年間を通して、また、行事や懇談会など機会を捉えて、保護者に伝えています。 ・保護者との懇談会は、七夕会、おもちつき、そして2月のビデオ鑑賞会と、年に3回行っています。懇談会は通常90%程度の保護者が出席しています。 ・日常的な保護者との情報交換としては、どの保育士も、子どもの送迎時に一言でもその日の子どもの様子を保護者と会話するようにしています。延長保育の時間帯にも常勤職員が勤務する体制を作っていて、保護者との情報交換がスムーズにいくように配慮しています。 ・全クラスで連絡ノートを活用しています。また、クラスごとにその日に活動したことを、保護者が全員通る玄関の壁に掲示して、毎日知らせています。 ・保護者からの相談は、受けたものが即答せず、基本的には担任・主任・園長で対応し、園全体で考えるようにしています。相談は記録して、継続的にフォローできるようにしています。 ・保護者の保育参加・保育参観は、希望者を常時受け入れ、また、子どもの誕生会にはその子どもの保護者を招待しています。 ・保護者会があり、年に2回保護者会主催の行事として、バザーを兼ねた「ふれあい祭り」と「お別れ会」を行っています。役員会には必要により園側も参加するなど、保護者会とは良好なコミュニケーションを図っています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児講座、交流保育、園庭・保育室開放、育児相談などにおける保護者の意見・要望を通して、さらに、毎年開催の緑区役所主催「みどりっこまつり」などを通して、地域の子育て支援ニーズを把握しています。 ・また、横浜市緑区役所こども家庭支援課との意見交換、緑区園長会や法人系列6園の園長会における情報交換などからも、地域の子育て支援ニーズを把握しています。 ・園は、これら地域の子育て支援ニーズに対応して、毎月1回の園庭・保育室開放、年3回の育児講座の開催、さらに、一時保育や年3回の交流保育を行っています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の持つ子育て支援に関わる情報や具体的ノウハウは、育児相談、育児講座、園庭・保育室開放などを通して、積極的に地域へ提供しています。 ・また、園から地域への子育て支援情報の提供は、緑区役所が毎月発行している「みどりっ子カレンダー」を通しても行っています。 ・地域住民からの相談内容によっては、緑区福祉保健センター、横浜市北部地域療育センターなどの関係機関・団体と連携がとれる体制となっていて、日常的な連携もできています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やクリスマス会などの園の行事に地域住民を招待したり、地域のボランティアグループと協力して、花植え活動に参加したりするなど、地域との交流に努めています。 ・小学生の見学を受け入れたり、中学生・高校生の体験実習を受け入れたりなど、地域の学校との交流も図っています。 ・関係する2つの自治会に加入し、地域コミュニティとの友好的な関係を築くとともに、子どもたちが毎日の散歩等を通して、地域の人たちと交流する機会を持つことも大事にしています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の利用者が関心のある事項について、園のパンフレット、運営法人山百合会のホームページ等により、随時、情報を提供しています。 ・また、緑区役所が発行している月刊誌「みどりっ子カレンダー」にも情報を提供しています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容等についての問い合わせに対しては、常時、対応しています。また、利用希望者には、見学できることを案内していて、園長または主任が案内・説明しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（主に中高生の体験ボランティア）の受け入れにあたっては、マニュアルに基づき、ボランティアに園の方針、子どもたちへの配慮等を十分説明しています。主任が、受け入れと育成の担当者となって指導し、ボランティア活動の終了時には、感想文を提出してもらっています。 ・実習生の受け入れにあたっては、マニュアルに基づき、実習生に園の方針、子どもたちへの配慮等を十分説明しています。主任が、受け入れと育成の担当者となり、実習目的に応じた効果的な実習が行われるように、実習依頼校と連絡をとってプログラム等を工夫しています。 ・また、実習中は各クラスで毎日反省会を行い、実習最終日には、全体反省会を設けて実習を振り返るものになっています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・基本方針を踏まえた保育が実施できるように、人材育成計画を策定し、園としての人材育成に努めています。また、目標管理制度に基づき、個々の職員の資質向上に向けた取り組みを行っています。 ・職員の研修体制が確立しています。園内研修としては系列6園で構成する各種部会研修があります。また、横浜市こども青少年局や緑区が主催する外部の研修会・研究会にも、非常勤職員も含めて積極的に参加しています。 ・非常勤職員に対しても職員と同等の指導・支援体制をとっていて、業務にあたっては、職員と非常勤職員の組み合わせを考慮するとともに、円滑なコミュニケーションが図れるよう努めています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、リーダー会議、クラス会議を通して、日々の保育について意見交換を行い、見直しと実践につなげています。 ・また、系列6園で行っている各部会での相互研修は自己研鑽の場にもなっていて、その経過は職員会議でも報告してもらい、保育スキルの向上に役立てています。 ・保育園の園長を経験し、現在関係分野で活躍している方々に、適宜、保育技術の評価・指導等を受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられ、職員のやりがいや満足度を高めています。 ・職員会議、リーダー会議等においては、各職員が積極的に発言できるように会議運営を行っていて、コミュニケーションを通して示される職員からの業務改善提案などを、日々の業務に活かしています。 ・園長は、個人面談を通して、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等が「倫理規定」の中に明文化され、職員に周知されています。また、同法人系列園の園長会、緑区園長会、横浜市私立園長会などで入手した、他施設での不正・不適切な事例の情報は職員会議で説明し、これらの行為が行われないように啓発しています。 ・ゴミの分別、牛乳パックによる遊具・教材の製作、廃油からのプリンせっけん作り、給食の生ごみによる堆肥作りなど、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。 ・環境への考え方や取り組みは文書化して、環境に配慮した活動を実践しています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の理念や基本方針は「経営指針と職員の行動規範」の中に明文化し、全職員に配布し周知を図っています。保育園の理念や基本方針は、2月に系列6園で行う園内合同研修報告会において、理事長より理解を深めるための説明を行っています。 ・園長は、重要な意思決定にあたり保護者懇談会や保護者会を通して、保護者と意見交換を行っています。職員に対しては、リーダー会議で決定し、各クラスへ下ろしています。 ・スーパーバイズのできる主任クラスの職員を計画的に育成するプログラムが、法人として作成されています。 ・主任は、会議や巡回などを通して、個々の職員の業務状況を把握するとともに、個々の職員の能力や経験に合わせた的確な助言や指導を行っています。また、休憩時間や会議等の機会を通して、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、系列6園の園長会、緑区園長会、横浜市私立園長会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。また園長は、運営面での重要な改善課題については職員に周知し、園全体の取り組みとしています。 ・法人として、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成しています。また法人として、次代の組織運営に備え、運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みを常に検討するとともに、計画的に後継者育成にも努めています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

【八朔乳児保育園】

- 1、実施期間 2009年9月14日～9月27日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約92.9%（28枚配付、26枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...9人、1歳児クラス...9人、2歳児クラス...8人
同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」と「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

69%の保護者が、保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の95%が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。自由記入欄に、“働いている保護者への協力と理解の姿があり、大変助かっている”という声がありました。

【問2】入園時の状況について

入園時の面接、保育園での1日の過ごし方・費用やきまりなどに関する説明に、保護者の85%以上は満足しています。しかし、「園の目標や方針についての説明」は、満足度が75%強にとどまっています。経営理念や経営方針は、保育園が大切にしている価値を表現するものです。入園時は保護者にとって大変忙しい時期ではありますが、保護者に理解されるようにさらに努めることが望まれます。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事の説明」「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」について、ほぼ90%の満足度です。自由記入欄に、“季節ごとの行事があり、子どもが楽しそうにしている”“行事が事前に連絡されるので、予定が立てやすい”という期待を込めた声がありましたが、保護者の就労状況によっては行事参加に苦労している様子もうかがえました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

遊びについては、「クラスの活動や遊び」「おもちゃや教材」「自然や地域に触れる園外活動」「遊びを通じた友だちや保育者との関わり」の4項目について、90%以上の満足度です。「戸外遊び」「遊びを通じた健康づくりへの取り組み」の項目についても90%弱の満足度でした。保護者は、遊びについて全般的に満足し、期待していることがうかがえます。自由記入欄には、“教わった歌や手遊びなどを家庭でやっている”“天気の良い日は、毎日散歩へ行き、子どもに体力がついている”“食べ物を育てたり、食を通じた遊びがうれしい”などの声が寄せられています。

生活については、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「体調への気配り」「ケガに関する保護者への説明や対応」については95%以上の満足度です。自由記入欄には、“いつも気にかけてもらっている”“よく見ていただいている”と、多くの感謝の言葉が見られます。また、“ちょっとしたケガに対しても細かく連絡がある”など、ケガに対する園の丁寧な取り組みについて保護者の安心感が読み取れます。「おむつはずし」については81%の満足度ですが、これは該当しない保護者が「その他」として12%を示していることによります。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」については、85%の満足度です。“園庭がもう少し広いといい”との意見が幾人かの保護者から寄せられていますが、“園庭テラスは少し狭いが、木のぬくもりが大好き”の記述もありました。

「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については、77%の満足度です。近年の治安状況を受けて、保護者は不審者対策には大きな関心を持っています。今後、さらなる改善策を検討するとともに、現在、実施している対応策について、保護者への十分な説明が望まれるところです。

「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については、96%の満足度です。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「懇談会や個別面談による話し合い」「園だよりや掲示による情報提供」「行事の開催日や時間帯への配慮」

「子どもに関する重要な情報の連絡」「相談事への対応」などの各項目については、100%に近い満足度です。園は法人の経営理念、経営方針に沿って、保護者との連携・交流に力を注いでいることがうかがえます。自由記入欄には、“担任だけでなく、保育園全体で子どもをみてくれるので安心” “園長先生も自ら保育に参加されているので安心” “何かあれば相談、連絡できる体制なので、安心して子どものことが相談できる” など、保護者の園への信頼感が見られます。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」は100%の満足度です。

またその他の「アレルギーや障がいのある子どもへの配慮」「話しやすい雰囲気、態度であるか」「意見や要望への対応について」の各項目についても90%以上の満足度です。

自由記入欄には、“とてもやさしい対応で、子どもも先生が大好き” “いつも雰囲気がよく、子どもは抱っこされると安心した表情を見せる” “細かなところまで気を配ってくれ感謝” など、保護者は職員の対応に好感を持っていることがうかがえます。

【問8】保育園を総合的に評価すると

96%の満足度です。

まとめ

- ・利用者家族アンケート配布28名に対して、回答26名（回収率92.9%）という結果は、保護者と保育園の間の密接な連携を示していると考えられます。
- ・各項目に対して、高い満足度が示されています。保育園や職員が保護者に信頼されていると考えられます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

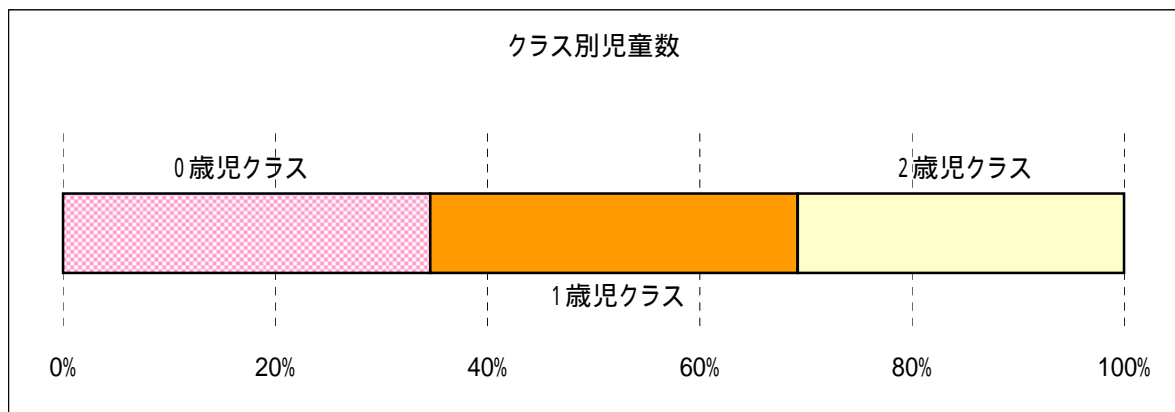
実施期間： 2009年 9月14日～9月27日

回収率： 92.9% （回収26枚 / 配布28枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
26	9	9	8	0	0	0	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



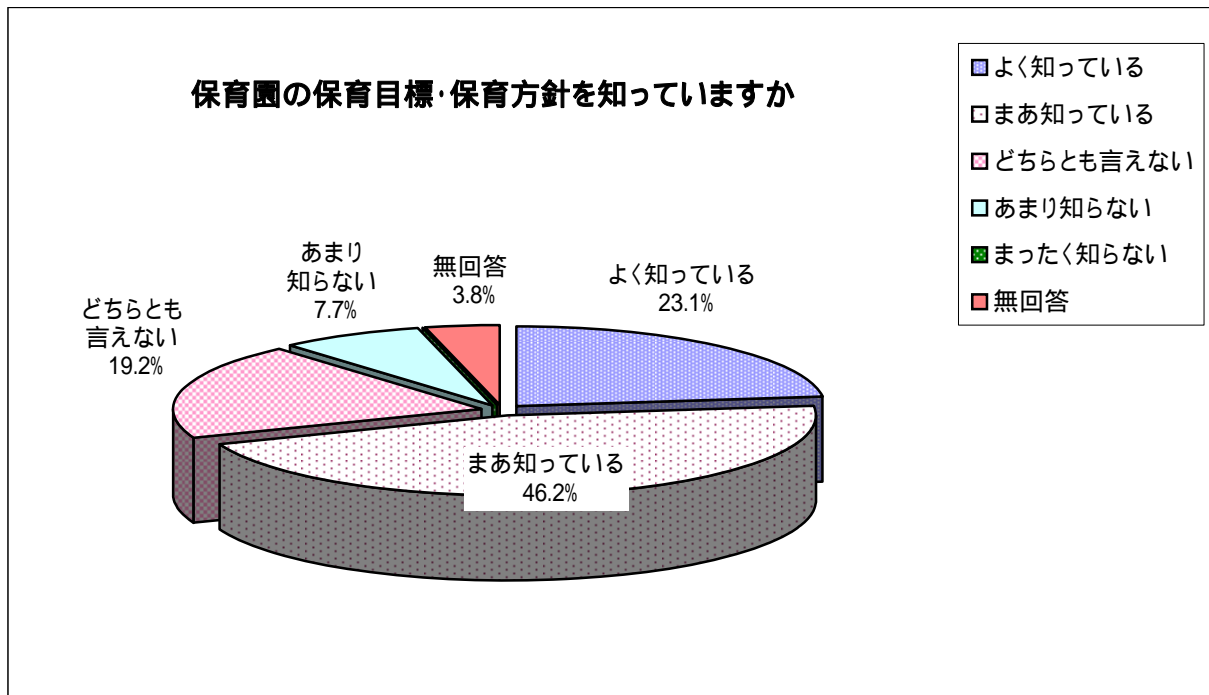
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	23.1	46.2	19.2	7.7	0.0	3.8	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

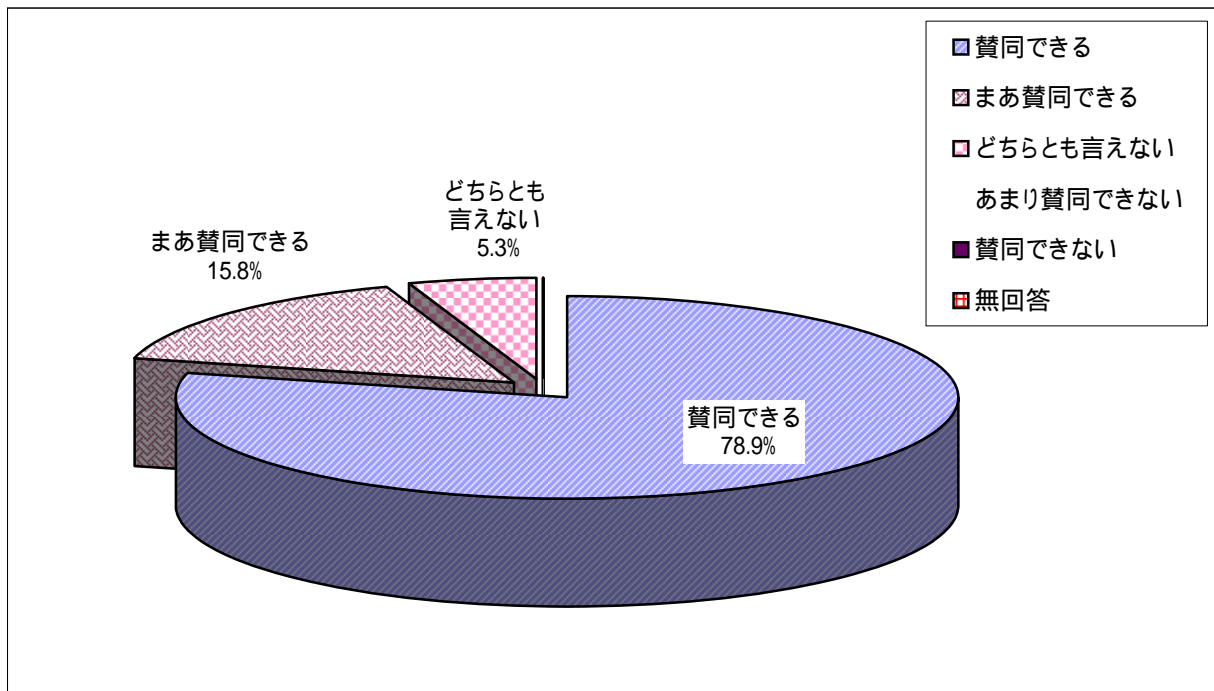


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	78.9	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	100



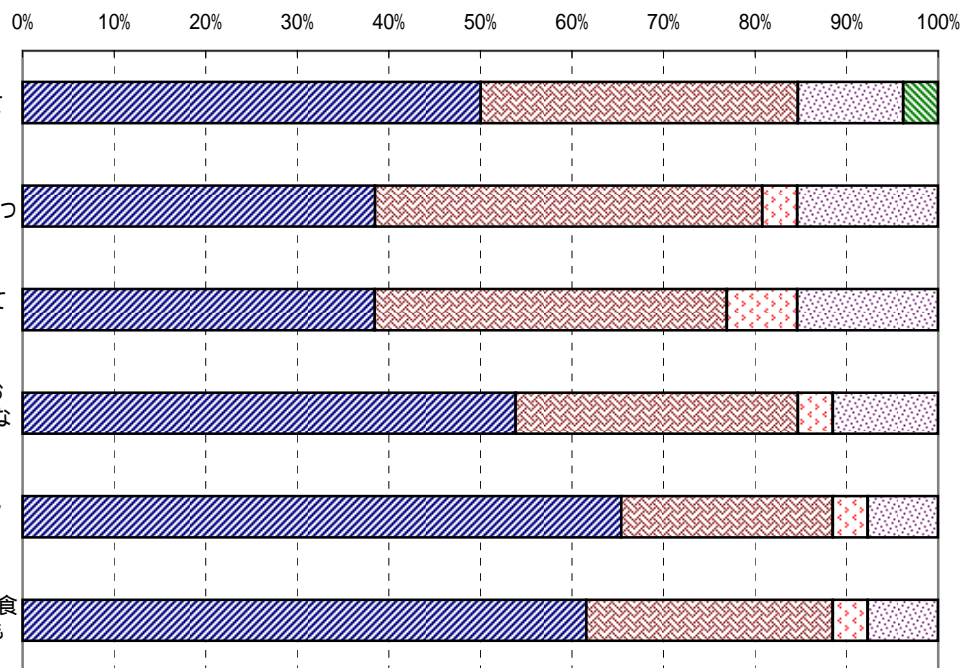
保育園のサービス内容について
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	50.0	34.6	0.0	0.0	11.5	3.8	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	38.5	42.3	3.8	0.0	15.4	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	38.5	38.5	7.7	0.0	15.4	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	53.8	30.8	3.8	0.0	11.5	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	65.4	23.1	3.8	0.0	7.7	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	61.5	26.9	3.8	0.0	7.7	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



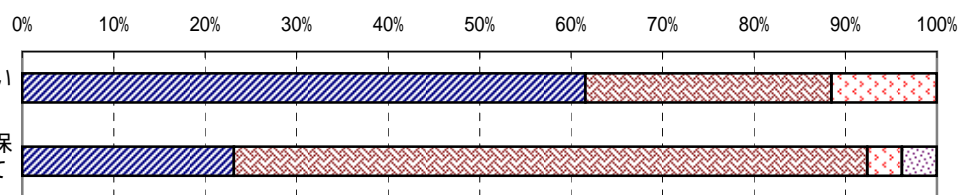
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	61.5	26.9	11.5	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23.1	69.2	3.8	0.0	3.8	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

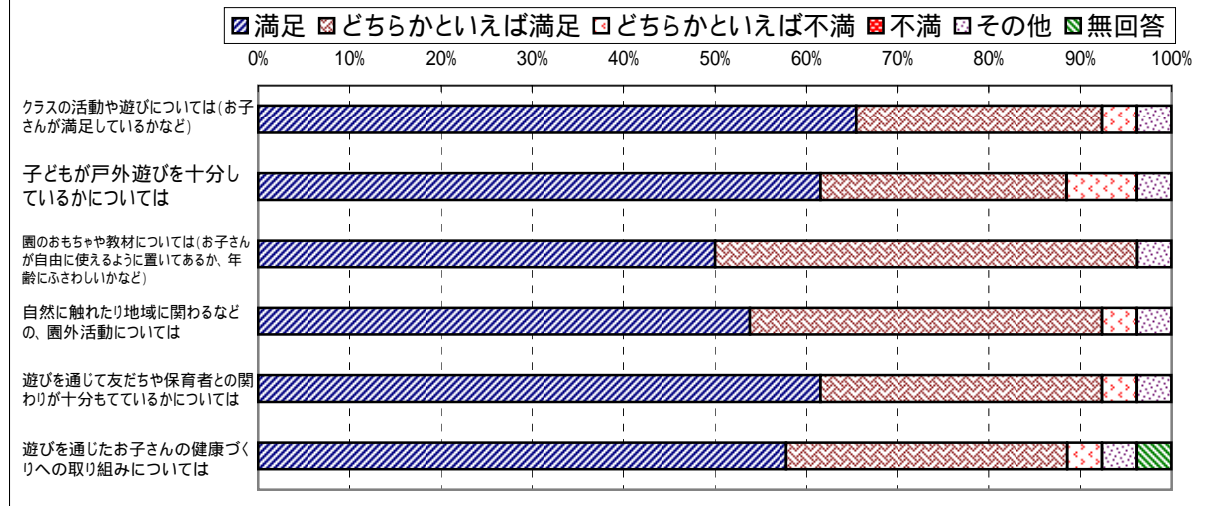


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	65.4	26.9	3.8	0.0	3.8	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	61.5	26.9	7.7	0.0	3.8	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	50.0	46.2	0.0	0.0	3.8	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	53.8	38.5	3.8	0.0	3.8	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	61.5	30.8	3.8	0.0	3.8	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	57.7	30.8	3.8	0.0	3.8	3.8	100

日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	76.9	19.2	0.0	0.0	3.8	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	73.1	11.5	7.7	0.0	7.7	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	73.1	19.2	3.8	0.0	3.8	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	57.7	23.1	3.8	3.8	11.5	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	73.1	23.1	0.0	3.8	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	73.1	23.1	3.8	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



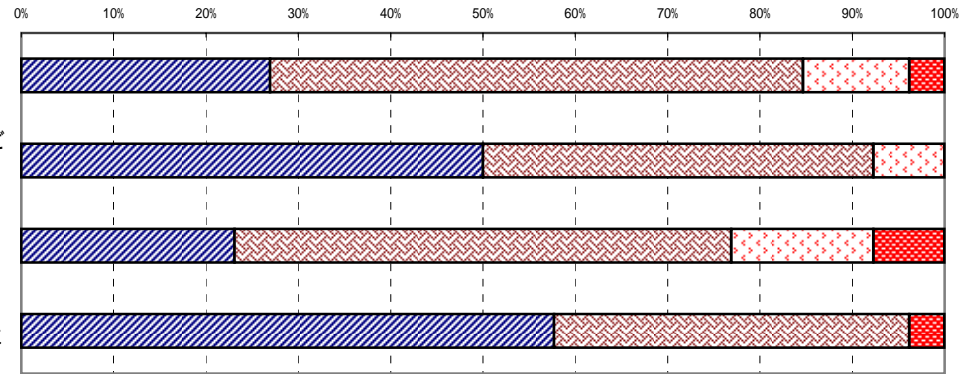
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	26.9	57.7	11.5	3.8	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	50.0	42.3	7.7	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	23.1	53.8	15.4	7.7	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	57.7	38.5	0.0	3.8	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



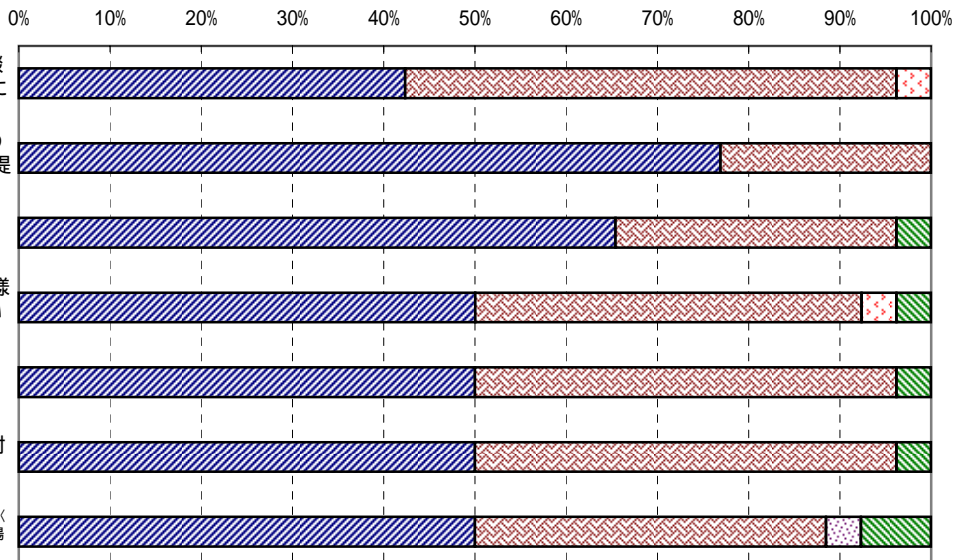
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	42.3	53.8	3.8	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	76.9	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	65.4	30.8	0.0	0.0	0.0	3.8	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	50.0	42.3	3.8	0.0	0.0	3.8	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	50.0	46.2	0.0	0.0	0.0	3.8	100
保護者からの相談事への対応には	50.0	46.2	0.0	0.0	0.0	3.8	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	50.0	38.5	0.0	0.0	3.8	7.7	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

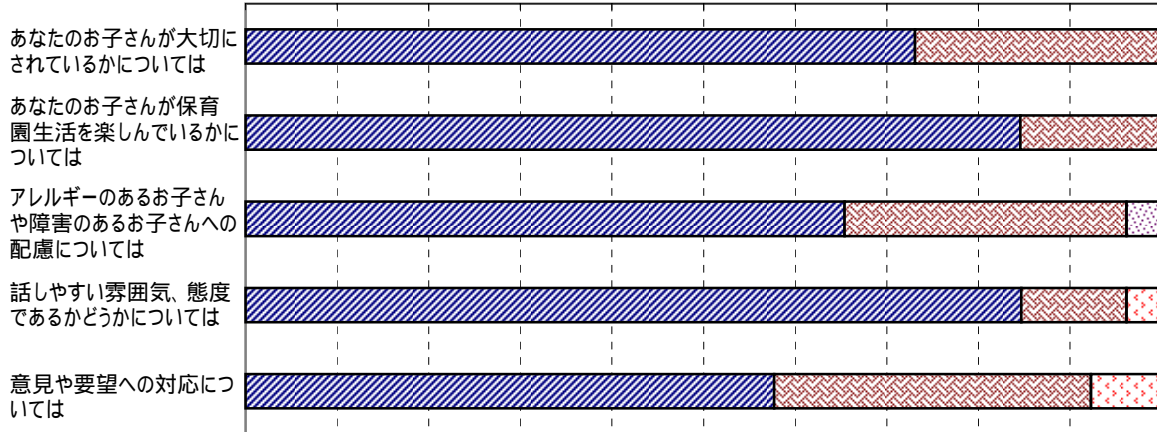
(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	73.1	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	65.4	30.8	0.0	0.0	3.8	0.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	84.6	11.5	3.8	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	57.7	34.6	7.7	0.0	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえ
ば満足 ■どちらかといえ
ば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

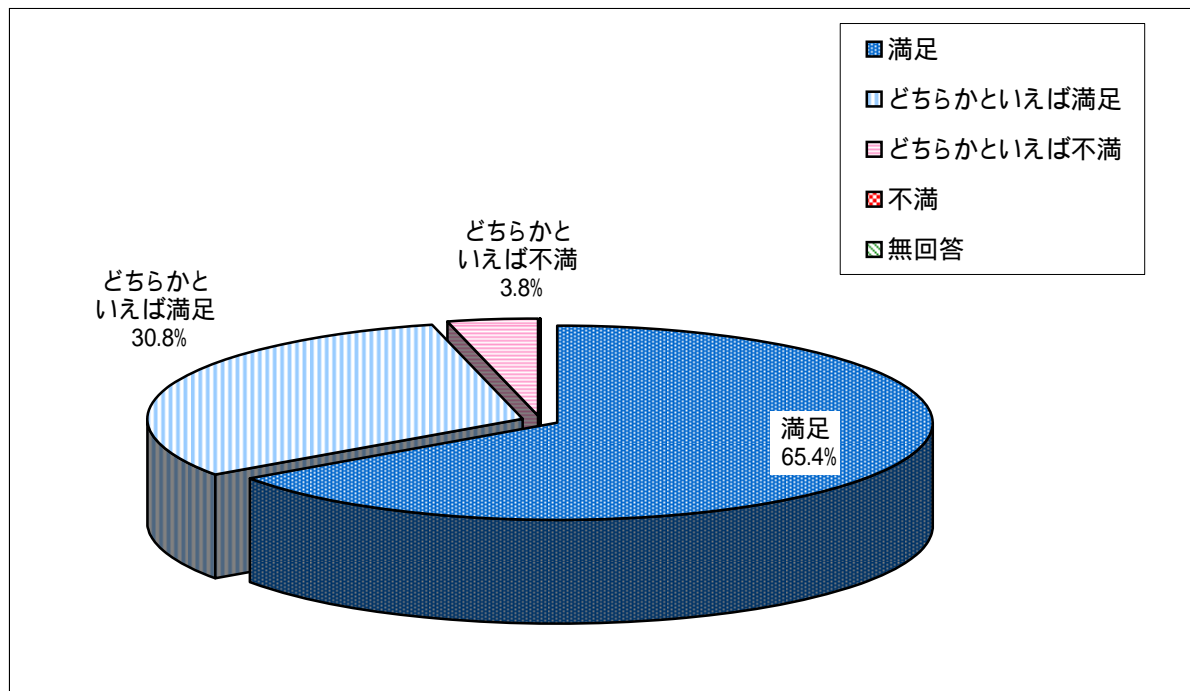
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	65.4	30.8	3.8	0.0	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

【八朔乳児保育園】

観察調査	10月29日（木）8：50～12：20
	11月9日（月）7：30～12：20、16：15～19：45
	当保育所は0～2歳児のみの保育を行っていますので、 利用者本人の聞き取り調査は実施せず、保育観察のみ行いました。

0歳児クラス

保育室は2階で、1つの部屋を低い柵で区切って2つに分けています。出入り口に近いほうのスペースが遊び、着替え、おむつ交換用ですが、ベビーベッドが2台こちらに置かれています。奥のスペースは食事と睡眠用です。ベビーベッドはこの時期にはもうあまり使われていませんが、つかまり立ちができるようになった子どもたちの楽しい遊び場になっています。後ろ側の柵につかまって立ち上がったたり、ガタガタゆすったり、隠れたつもりで、イナイナイバーを試してみたりする子どもたちに、保育士たちは笑顔で本気になって相手をしています。

月齢の差や登園時間の差がひびくクラスです。哺乳瓶でミルクを飲む子どももいれば、おやつ時間まで睡眠用の部屋で眠っている子どももいます。個別対応が大切にされ、食事の時間に眠っている子どもに対しては、目が覚めてから食事を温めて与えていました。柵にはホワイトボードが掛かっている、子どもたち一人ひとりの様子をその都度書き込めるようにして、担当職員全員が子どもたちの状況を把握できるようにしています。

秋になって、言葉もよく出てくるようになり、また何とか全員一緒に散歩に行けるようになりました。この日も全員で散歩に行きました。つかまり立ちができる子どもたちは立って乗るバギーに、できない子どもたちは座って乗るバギーに分かれます。保育士のひざから離れられなかった子どもも、バギーに乗るとご機嫌になりました。目的地は砂地の公園で、シートを敷いて子どもたちをおろしましたが、大半の子どもたちはトコトコ歩いたりハイハイしたりして、シートから出かけていきます。歩くことそのもの、ハイハイすることそのものが楽しげな様子ですが、「見て見て！」と保育士を求めます。保育士は木の陰に隠れてイナイナイバーに誘ったり、砂場遊びやボール遊び、追いかけてここに誘ったり、全員が楽しく遊べるようにかかわっていました。

1歳児クラス

このクラスはちょこちょこ集団活動をします。簡単な朝の会のとき、公園でお茶を飲むとき、散歩から戻って手洗いやうがいをする前後、食事準備の間、午睡の前などです。集団活動のやり方は、子どもたちが興味を持って集まってくる、ということを基本としています。保育室をフラフラ歩いている子どもをしかったりすることはありません。興味を持って自分からみんなのところに来るように仕向けています。大半の子どもたちは、保育士が手遊びや絵本の読み聞かせ、ペープサートなどを始めると、自分から集まってきます。

1歳児クラスになると、他の子どもとのやりとりも多くなっています。2人並んで1人遊びをしていたり、キャッキヤと笑い合ってジャンプしたり、真似して後について走ってみたり、という楽しげな光景もありますが、おもちゃの取り合いなども頻繁です。他の子どもがそばにいるのに砂を投げたり、おもちゃを振り回したり、という行動も目立ちます。保育士はその都度、決して禁止の言葉は言わず、丁寧に根気よく、その子どもの気持ちも相手の気持ちも受け入れて、「お友だちにお砂かかっちゃったよ、ごめんねって」「これが使いたいね。でも ちゃんが使ってるの。貸してって言ってからね」とか、「10数えたら貸してあげる？」というように働きかけます。

公園では、みんなで大きな木の下に砂に埋もれているどんぐりを見つけて「アッター！」とつまんで喜んだり、カップに入れたり、ほかの子どもに袋に入れてあげたりして遊びましたが、このどんぐりは、実は保育士がほかの場所から拾ってきて、この木の下に砂に埋めておいたものでした。公園には0歳児クラスもや

ってきて、一緒に遊びました。

2 歳児クラス

このクラスも部屋は2つに区切られていて、奥の部屋の片側はままごと用の調理台やままごとセットなどがあります。反対側は遊びコーナーとしてカラーマットが敷いてあり、そばに丸いテーブルや牛乳パックをきれいな布で覆った小さな椅子もいくつかあり、子どもたちの発想で自由に椅子を動かしたりして、落ち着いて小さな集団で遊ぶこともできます。自由に遊ぶ時間には奥の部屋は静かな遊びで、走り回ったりする子どもは出入り口に近い部屋で遊ぶようです。1人で絵本に集中する子ども、2人でくっついて絵本を見る子ども、ままごとでお母さんになっている子どもたち、また、ブロックで電車や飛行機を作り、2~3人でプーっと走らせたり、思い思いに遊んでいました。

観察日は公園に行きました。集団での行動もまとまってきて、途中、全員で一斉に競争でかけっこを楽しんだり、歩きながら自然と歌が出てきたりしました。「大きな栗の木の下で」を1~2人が歌いだすと、何となく合唱のようになり、さらにもう一曲みんなで歌いました。公園では約束事も守ります。「ブランコ遊びはお父さんお母さんと来たときにね」という保育士の言葉を守り、滑り台を順番にすべることも知っています。簡単な遊び「ケンケンパー」のやり方も理解して楽しめます。電車が見えないかなとフェンスの近くに集まったり、木陰の虫を探したり、また1人で遊びながら踊るようにクルクル回ったり、走り回っている子どももいます。みんな、生き生きと公園での遊びを楽しんでいました。

このクラスの子どもたちは八朔乳児保育園の年長さんです。朝夕は主に1歳児も一緒に遊び、おやつを食べます。自分がお兄さん、お姉さんだという自覚があり、小さい子どもたちを気遣ったりする姿もあります。着替えはほとんど自分ででき、食事も箸を使う子どもも出てきています。トイレにもめいめい行きます。片付けも自分からきちんとしています。ある子どもは、帰る前に、自分の遊んだたくさんのおもちゃをそれぞれ分類箱にきっちりしまっていました。

長時間保育・延長保育

夕方5時近くなると、2歳児クラスの保育士が、「もうちょっとで海小さん(1歳児クラス)が遊びにくるから片付けようね」と、いったん部屋を片付け、新しく1、2歳児が一緒に遊べるようなおもちゃの設定をします。1歳児の保育士が「お邪魔します」と子どもたちを連れて、やってきます。子どもは13人で保育士は3名になりました。ブロックの組み立てや人形の寝かしつけなど、比較的静かな遊びになります。お茶タイムには2歳児が1歳児の手を引いてきたりします。

6時近くなると、「そろそろ空組さん(0歳児)が来るから片付けよう」ということになります。片付けが終わらないうちに2階から0歳児が抱っこされてやってくると、子どもたちはあわてて「もう来ちゃった!」と急いで片付けます。保育士が「赤ちゃんがいるからお座りトンで遊ぼうね」と全員を座らせます。この時点では子どもは9名、保育士3名、福祉員2名ですが、保育士2名は子どもたちが落ちつくまで退室です。子どもは次々にお迎えが来ますが、仕事の終わった職員も順次帰っていきます。主任と園長が子どもの様子を見回りにきます。こじんまりした雰囲気になっていき、子どもたちは保育士のひざで、あるいは2人並んで椅子に座ってじっくり絵本を見たり、ままごとをしたり、やはり静かな遊びです。福祉員が洗濯バサミを動物の絵カードに挟む遊び道具を持ってきて、子どもたちを集めたりします。

6時半になると、おやつです。この日、子どもは0歳児2名、1歳児1名、2歳児2名でした。2歳児が「よっこいしょ」と牛乳パックの椅子3つをテーブルまで運ぶことができます。0歳児2人は一人用のひじつきの椅子です。テーブルを囲んでホットドッグとミルクをいただきました。お代わりをする子どももいれば、ウィナーだけ食べてお代わりをほしがる子どももいます。職員は一人ひとりの状態をよく把握していて、優しく対応していました。

おやつが終わると子どもたちは機嫌よく、飽きずにぬいぐるみを布団に寝かしつける子ども、ブロックに取り組む子ども、保育士と一緒に乗り物の絵本を見て「西武線だよ」「カシオペアだよ」などと指差しながら繰り返し見る子ども、と、みんなそれぞれ好きな遊びに落ち着いて集中し、寂しげな様子はありません。7時半を過ぎると子どもは0歳児と2歳児の2人になり、保育士と1対1の対応になりました。

事業者コメント

第三者評価を終えて

～ 職員の声、そして保護者への気持ち～

最初に第三者評価を受けると知った時には、不安な気持ちで一杯でした。色々な準備をしているうちに自分たちの保育を見直したり、園全体の事を考えたりする事が出来たと思います。

評価項目の内容一つ一つについて皆で話し合い、理解し確認していくのは想像していた以上に大変で、時間のかかるものでしたが、一人で考える時間や話し合いの時間を通して保育園の役割、そして職員一人一人の仕事の責任の重さ、重要さについて振り返る良い機会になったと思います。

また、話しあうことをさらに文章化することで全職員の理解、認識がより深まったと思います。改めて保育を見直すことが出来、再発見できたこともあり勉強になりました。

園内でのコミュニケーションもさらに深まり、職員全員がそれぞれ気づいたことを相談しあったり、働きかけたりすることが増えて良かったと思います。職員会議や打ち合わせ以外に話し合う時間を設けて相互の理解を深められたように思います。基本的には毎日の保育を今まで同様に考え、子どもの成長を見守っていきたいと思います。

また、今回の保護者へのアンケートを見て、保護者から職員がなんて温かく見守られているのだろうかと保護者一人一人に感謝の気持ちで一杯です。大人についても子どもについても思う事は、人は褒められて育つものなのだという事を改めて感じました。

ゆっくり、のんびりですが、一人ひとりの子ども達の笑顔と未来のために、八朔の保育を大切にしていきたいと思います。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
